

魔法の種 活動報告書

報告者氏名：佐藤 直幸 所属：狛江市立緑野小学校 記録日：平成 29 年 2月 7日
キーワード：漢字 コミュニケーション

【対象児の情報】

○学年 小学校4年生

○障害名 ASD 疑い

○障害と困難の内容 学習に対する抵抗感、コミュニケーションの苦手さ

- ・漢字を書く際には手に汗を書いたり、涙を流しながら取り組んだりするなど抵抗感が強い。
- ・コミュニケーションについては自分の興味ある話を一方的に話してしまう。
- ・自分の思いが通じないと癇癢を起したり、いじけたりすることがある。

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ・自分の考えや思いを相手に伝えるための方法を身に付け、人との関わりを深める。
 - ・漢字学習への負担感を下げること、学ぶ意欲を高める。
- ・実施期間
 - ・平成28年4月～平成29年2月
- ・実施者と対象児の関係
 - ・佐藤 直幸（通級教員 研究者 個別2時間グループ1時間での指導）
 - ・森村 美和子（共同研究者）
 - ・藤城 祐子（共同研究者）

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・ WISC-IVではFSIQ、PRI、PSIは平均の域であるが、VCI、WMIが平均より下だった。

【書き】

- ・ 学級のテストでは漢字の部分については「できない」といって書かないで提出することがほとんどだった。
- ・ 漢字を書く際には手に汗をかいたり、「えー!？」といたりして取り組むことを嫌がる様子が見られた。
- ・ 漢字の宿題については提出しないことが多い。
- ・ 学年相応の漢字を読むことはできるが、書くことはできない。
- ・ 漢字の想起が困難で、二年生の漢字もうまく浮かばない。
- ・ 字形がうまく整わず、筆圧が弱かったり、手先の不器用さもあった。
- ・ URAWSSは書き課題は有意味文無意味文共にA判定だった。スピードも正確さも問題ないことから、視写はできるが想起の課題が大きく書きに困難が出ていると思われる。
- ・ STRAWでは漢字に特に苦手さがあることがわかった。

【コミュニケーション】

- ・ 自分の思いを言葉にして伝えたり、周囲と思いを伝えあったりすることに課題がある。
- ・ 自分ばかりが一方向的に話をしてしまう。応答のタイミングがつかめない。
- ・ 自分の思いが伝わらないと思ったときには「なんでもない」「いい」といってシャットダウンしてしまう。
- ・ 思ったことや感じたことを言葉で表現することが難しい。
- ・ 悪気なく相手に失礼な態度をとってしまう。
- ・ 間違いを受け入れたり、修正したりすることが難しい。

【その他】

- ・ 思い出すことが苦手。「なんだっけ、えーっとえーと…」といって出来事を思い出せずにイライラしてしまうことがある。
- ・ 新しい活動や急な予定変更に対しては不安な様子を示す。

URAWSSの結果

課題の種類	評価
書き課題(有意味)	A
書き課題(無意味)	A
読み課題	A

STRAWの結果(書き)

検査項目	本人	平均
ひらがな(1文字)	19/20	19.8
カタカナ(1文字)	17/20	19.0
ひらがな(単語)	20/20	19.6
カタカナ(単語)	12/20	18.5
漢字(単語)	3/20	16.4



○活動の具体的内容

① コミュニケーションの広がりを支えるための活動として

- ・ 「by talk for school」を活用する
- 信頼できる人とのやり取りから様々な人との関わりへ広げていく。
- スタンプを活用して感情や思いの表出の助けとする。



② 漢字の学びを支えるための活動として

- ・ 漢字海賊
- ・ 常用漢字筆順辞典
- ・ 予測変換機能
- ・ make it



① コミュニケーションの広がりを支えるための活動

自分の思いや考えを共有する方法を広げたり、他者とのやりとりを楽しみ、関わろうとする意欲を高めるために「by talk for school」を活用することにした。



「by talk for school」では様々な絵文字やスタンプが使用できる。感情をうまく言語化できない児童でも、スタンプや絵文字を活用することで思いを伝えるための助けとしていきたいと考えた。

【6月～7月】

- ・通級担任と1対1のやり取りを開始した。最初はクイズを出したりする中で応答の練習をしていた。受け答えも短文での返事や、顔文字のみを使って返信をしていた。
- ・やり取りを続けていく中で、徐々に文章と絵文字を組み合わせる送ってくるが増えた。絵文字についても複数の絵文字を組み合わせる送ってくるなど工夫して伝えてくる場面が出てきた。

【7月～8月】

- ・今までは通級担任からメッセージを送ってやりとりが始まっていたが、自分から発信してくるようになってきた。



【8月～9月】

- ・自分の好きなものを紹介してくることが増えた。
- ・活用初期と比べ、やり取りの量が増えてきた。
- ・状況に応じたスタンプや応答を返してくることが多くなってきた。



【9月～11月】

- ・今まで学習してきたことを、気持ちがうまく伝えられなくて困っている子や、自分のために気持ちの研究としてまとめていくことを始めた。
- ・by talk for school でのやり取りを続けていくとともに、感覚遊びをしたり、一緒に笑いあえるような活動に取り組んだりした。
- ・スタンプや絵文字を使っていく中で、by talk for school の中ではより多様なやりとりが増えた。動画や音声などでメッセージを伝えてくるようにもなった。
- ・「スタンプ、iPad の中にしかないんだよなあ…」と呟いていた。スタンプや絵文字の有用性を感じてきたのだと考えられる。
- ・by talk for school で活用していたスタンプを気持ちクッズとして作成し、様々な場面で活用した。



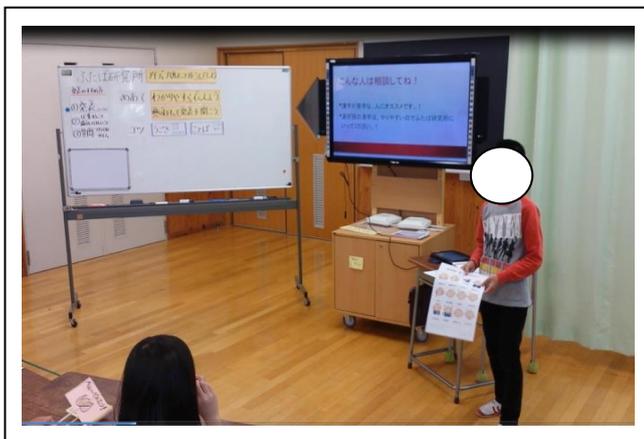
気持ちっぴ (表情カード) を使って、気持ちの変化をふりかえることができた!

気持ちポスターを作り、活用した。イライラしたときに指をさすることで気持ちを伝えることができた。



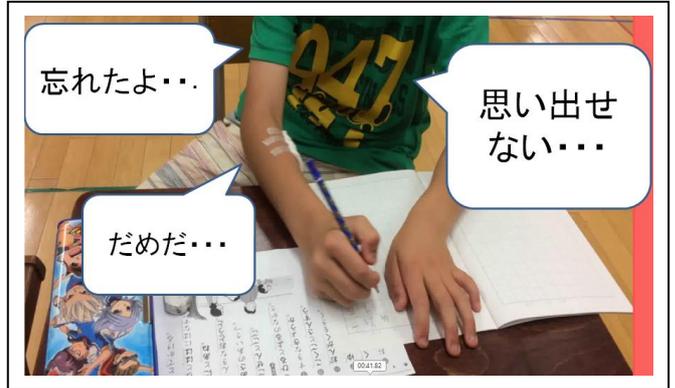
【12月～2月】

- ・自分が今まで気持ちのことについて研究してきたことを皆にも広めていくための取り組みを始めた。
- ・クラスや特別支援学級でも使えるような掲示物を、ドロップキット「つくるんです」を使って製作した。特別支援学級からは「気持ちを表す掲示物がほしい!」と依頼をもらった。
- ・皆の役に立つものを作って、広げる中で「ありがとう!」と言われる経験を積むことができた。
- ・通級指導教室のグループ授業「自分研究所」のなかで自分が研究してきたことについてまとめ、発表をした。通級にきている友達からも「すごいね!」と認められる経験を積むことができた。



② 漢字の学びを支える活動

- ・漢字の学習には意欲が出ず、漢字学習に取り組むことに抵抗感を示していた。
- ・作文でも漢字を使うことはほとんどなく、ほぼひらがなで書いていた。
- ・「忘れたよ……。思い出せない……。」と、漢字を思い出すことに負担感を感じている様子だった。
- ・漢字を読むことに関しては学年以上の漢字も読むことができていた。
- ・漢字の学習にはあまり意欲が出ないようだったが、国語海賊という正しい漢字を選択するアプリには意欲的に取り組んだ。



◇国語海賊



- ・3択の中から正しい漢字を選択して答えるアプリ。
 - ・漢字の細部が間違えている字が提示され、合っているかどうかを選択して答える問題もある。
 - ・自分の家でも自発的に取り組んでくるなど、自分で学習する様子が見られた。
- 本人に尋ねると「選ぶのはできる!」と答えていた。
→選ぶことができる点を漢字の学習に生かしていくことで、本人の漢字学習に対する意欲を支えていこうと考えた。



◇Make it をつけた学習

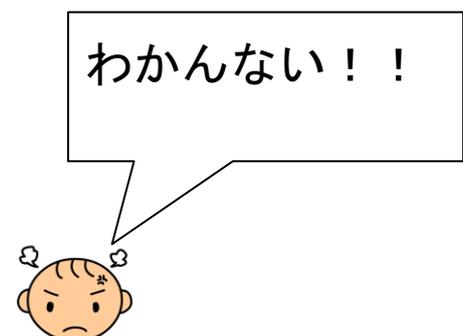
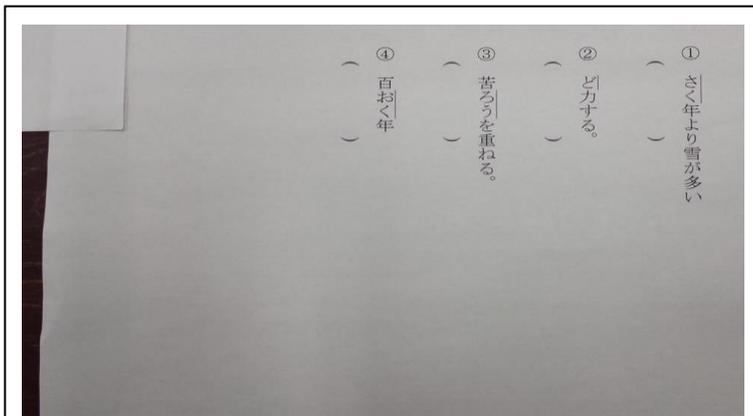


- ・2択の漢字から正しい漢字を選択するゲームを作成し、取り組んだ。
 - ・正しい漢字を選択することができた。
 - ・抵抗感なく取り組むことができた。
- 選択肢からなら漢字の学習に取り組めるのかを研究としてまとめていくようにした。

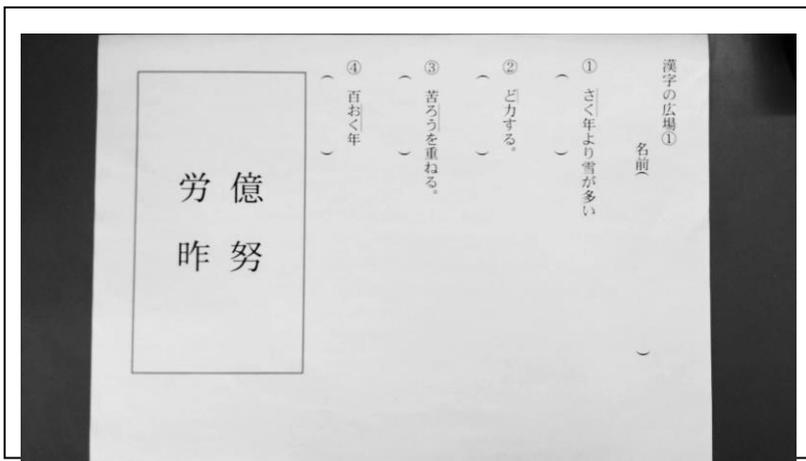


◇選択肢プリントを使った学習

- ・当初は漢字の10問テストはほぼ点数が取れずに記載しないで書くことが続いていた。漢字の学習の際には「え〜!？」と言って嫌がる様子も見られた。



- ・選択肢のあるプリントでは「これならできる!」とって取り組むことができた。

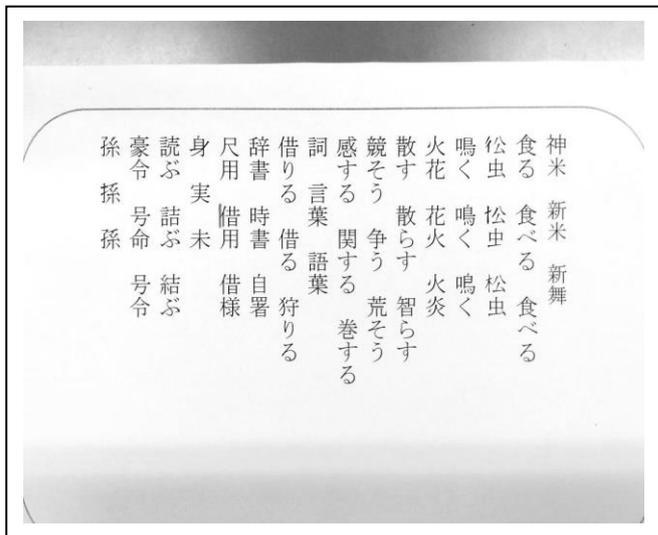


これならできる!



- ・同音の漢字、送り仮名や細部が違う漢字、漢字の一部分を隠したものを混ぜたプリントを漢字の練習に使った。
- ・漢字の一部分を隠した選択肢を増やしたり、簡単な漢字は選択肢から外したりするなど負荷を変えていながら練習をした。

同音の漢字	指す 刺す 差す	送り仮名が違う	明り 明かり
細部が違う	孫 孫 孫	一部が隠れている	目す



- ・クラスでも選択式のヒントカードを持ち込み漢字10問テストに取り組んだ。
- ・選択式のヒントカードを用いれば点数が60~70点取れるようになってきた。
- ・漢字に対する抵抗感が徐々に減り、嫌がらずに学習に取り組むようになってきた。
- ・漢字の細部を間違えることが多かったので、常用漢字筆順辞典を使って漢字の形を覚えるようにした。

常用漢字筆順辞典

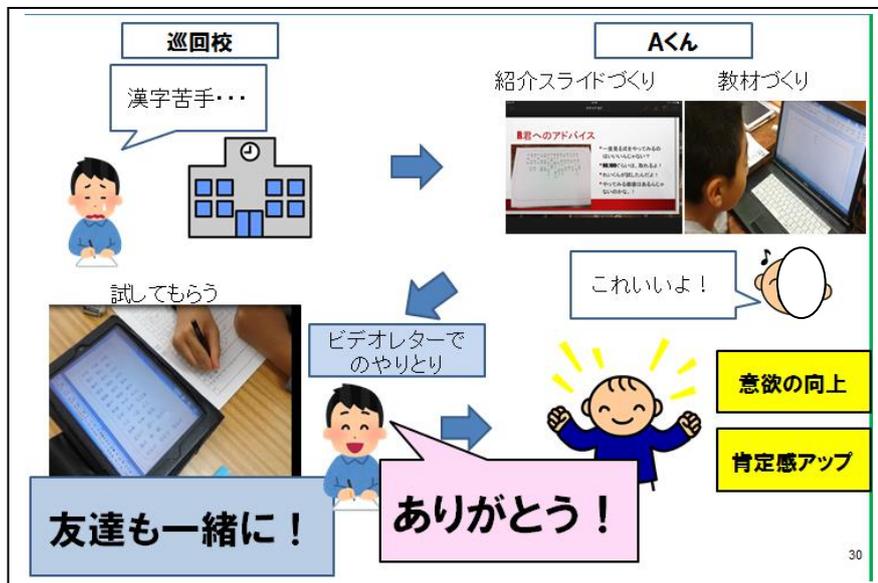
- ・細部まで確認できる
- ・指で大きくなぞれる
- ・書き順を何度も確認できる
- ・検索がしやすい

- ・漢字の学習に対する抵抗感が減った。
- ・選択肢から正しい漢字をほぼ選べるようになった。
- ・漢字を覚えようとする意識が高まってきた。



◇漢字の研究を広げる

- ・漢字の学習の振り返りの時に、「最初は漢字が苦手だったけど、90点から100点取れるようになってきた。みんなにも広めたい」という思いを伝えてくれた。
- ・漢字と気持ちの研究を皆にも広めていくために「MKプロジェクト」と称し、選択肢の漢字練習を広げていくようにした。
- ・同じ通級指導教室の児童から依頼を受け、その子のための選択肢プリントを作成した。プリントを渡し、実際に活用してもらおう中で「ありがとう!」といわれる経験を積むことができた。

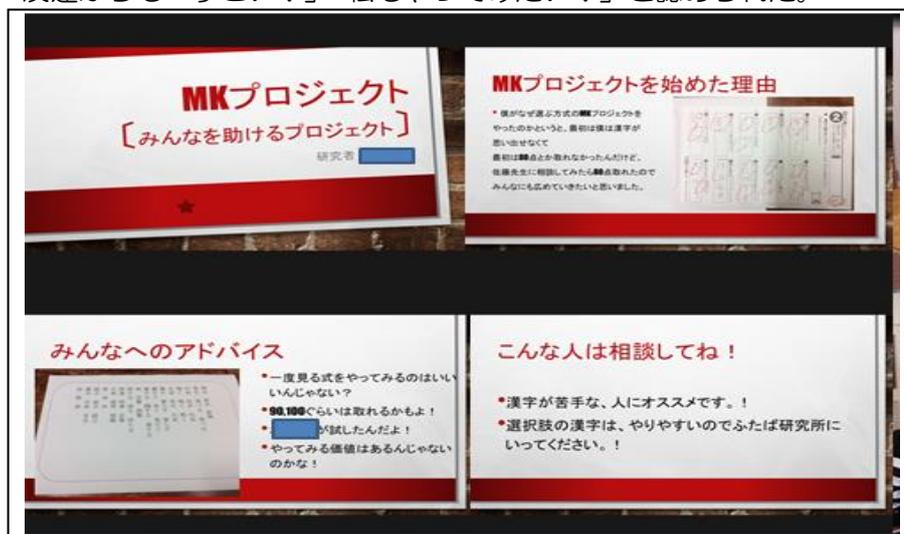


MKプロジェクト発動!

M...みんなをたすける
K...漢字と気持ちのプロジェクト

自分のやってきたことを他の人へ広げる

- ・通級指導教室のグループ授業でもMKプロジェクトについて発表をし、友達からも「すごい!」「私もやってみたい!」と認められた。



◇対象児の事後の変化

○関わりについて

- ・友達と遊ぶとする場面が増えた。取り組む前は通級指導教室に来てみんなとは遊ばずに個室に籠ってしまいうこともあったが、みんなで遊ぶ場面に参加することが増えた。
- ・関わり方が柔らかくなってきた。
- ・苦手や間違いの受け入れが少しずつできるようになってきた。
- ・自分の気持ちを言葉で表す場面が増えた。

○漢字について

- ・漢字学習に対する抵抗感が減った。最初は取り組むことも嫌がる様子だったが、2学期の後半からは鼻歌交じりで漢字学習に取り組む様子も見られた。
- ・二学期末の漢字50問テストでは一学期と比較して点数が30点向上した。

【報告者の気づきとエビデンス】

◇漢字自体に対する抵抗感の減少

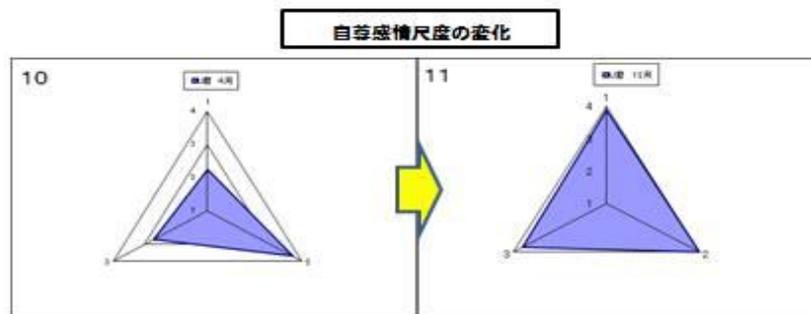
- ・漢字学習には鼻歌交じりで取り組むようになった。
- ・白紙で漢字のプリントを出すことはなくなった。

◇関わりを広がりや苦手な受け入れ

- ・感情の言葉が増えた。研究前は「わかんない」と言ったり、無言の場面もあったりしたが、研究を進めていく中で「イライラしてた」「うれしかった」など自分の言葉で少しずつ気持ちを伝えてくれるようになった。
- ・他者の気持ちを想像できるようになってきた。「いやなきもち？」と聞いてくることもあった。
- ・笑顔が増え、他者を誘って遊ぶ場面も増えた。通級指導教室にきた子と一緒に遊ぶ場面が増えた。
- ・「俺もそう。」と他者に共感をする様子が見られた。
- ・自信がついてきたことで少しずつ苦手なことや困っていることを話せるようになってきた。

「漢字は苦手じゃない。思い出して書くのが苦手なだけ。」「ゲームの世界はわかりやすくていいけど現実の世界は大変。わかりづらくてやりにくい。」と伝えてくれた。

◇自尊感情の高まり



- ・4月当初と比べ自尊感情が高まった。「ありがとう」と言われる経験や漢字のテストの点数が伸びてきたことが自尊感情の高まりにつながったと考える。

◇今後について

- ・コミュニケーションの苦手さや文字の想起の負担感は依然としてある。自分の困っていることについてどうすればいいのかを研究していく活動を通して、自ら解決していけるように支える。